

田辺三菱製薬株式会社

2014年度 決算説明会

(2014年4月1日～2015年3月31日)

2015年5月11日

代表取締役社長 三津家 正之



田辺三菱製薬

2014年度決算



売上高

4,151億円（対前期比 +0.6%）

営業利益

671億円（対前期比 +13.6%）

当期純利益

395億円（対前期比 -13.0%）

トピックス

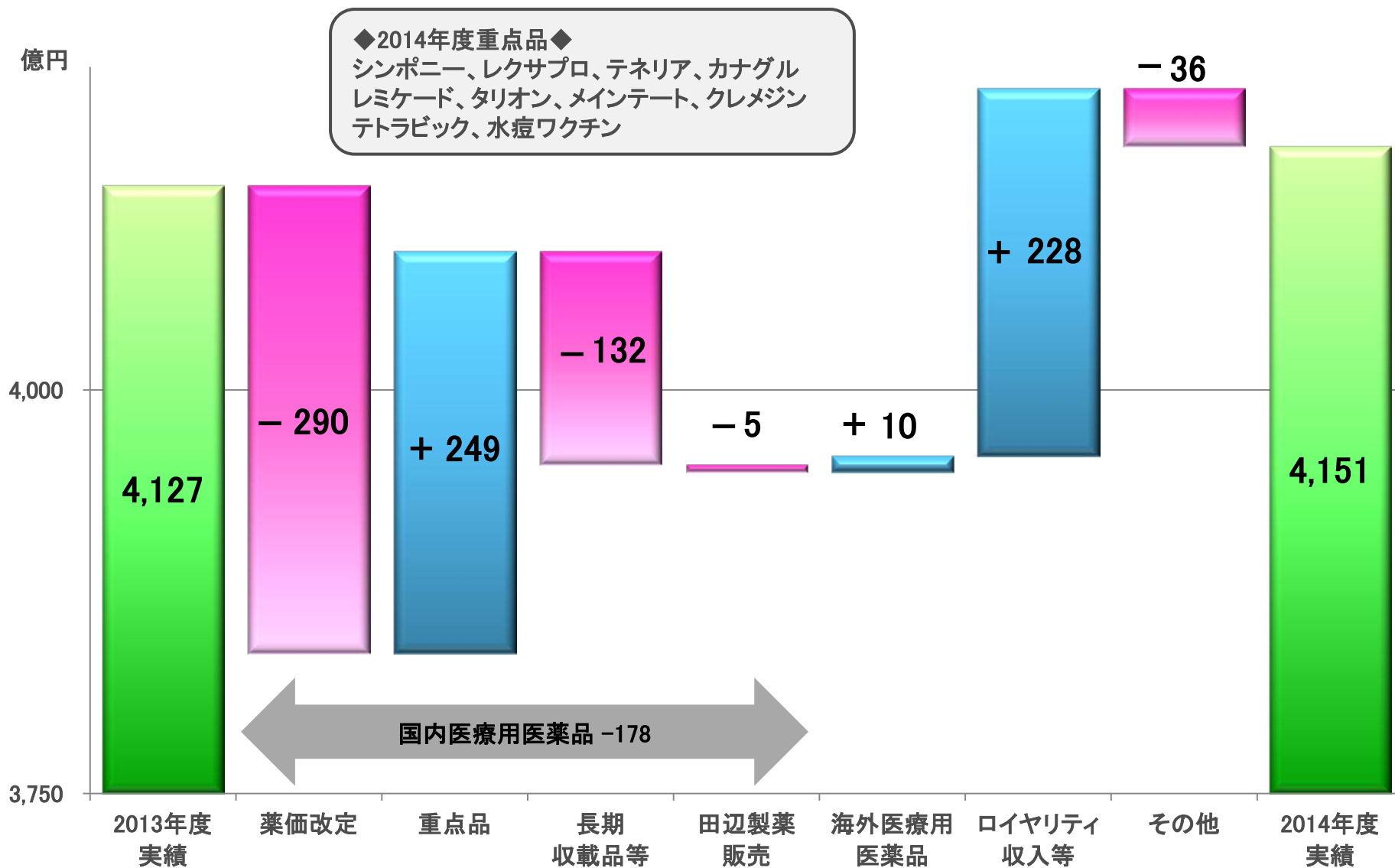
- ◆ 「ジレニア」「インヴォカナ」が伸長、2014年度のロイヤリティ収入等は604億円（前期比+60.7%）
- ◆ 「テネリア」の売上拡大が本格化、2014年度実績は62億円（前期比+54億円）
- ◆ 2型糖尿病治療剤「カナグル」を国内で発売（9月）
- ◆ 「ラジカット」について、ALSに関する適応追加を申請（10月）
- ◆ 「レミケード」について、特殊型ベーチェット病に関する適応追加を申請（10月）
- ◆ ニューロクライン社より、VMAT2阻害剤を導入（3月）
- ◆ 構造改革の推進
 - 田辺三菱製薬工場が保有する鹿島工場を、沢井製薬へ譲渡（2015年4月）
 - かずさ研究所を閉鎖し、国内の研究所を2拠点に集約することを決定（2月）
- ◆ 大阪道修町に、本社ビルを竣工（2月）
- ◆ 中国ならびにインドネシアに、新製剤棟を竣工（1月）

2014年度決算概要

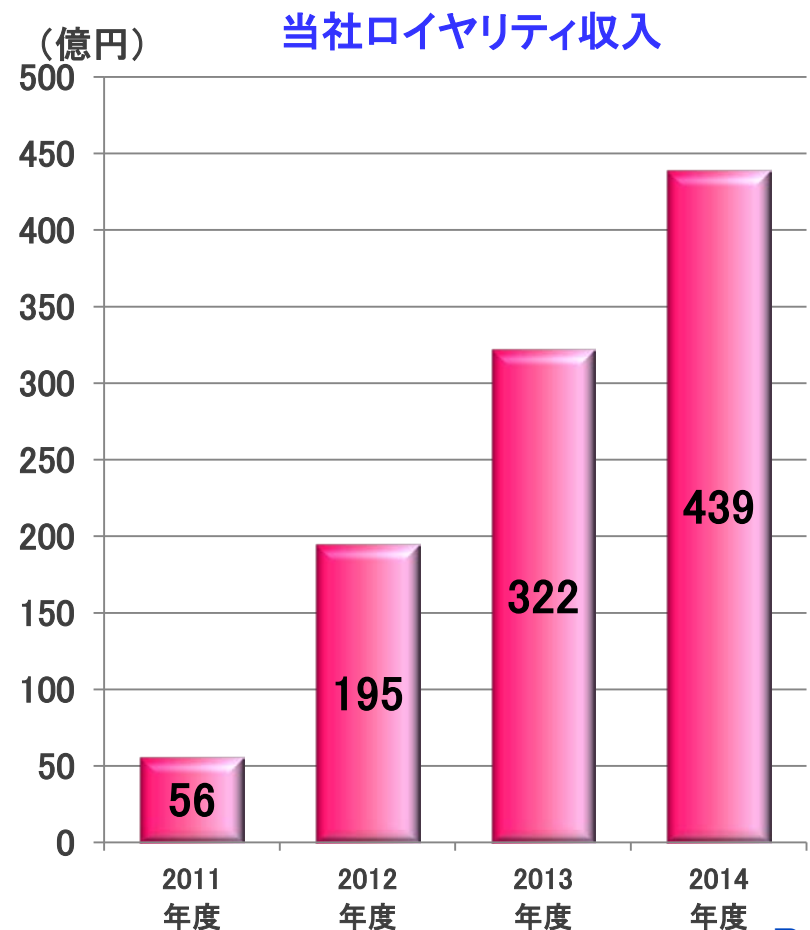
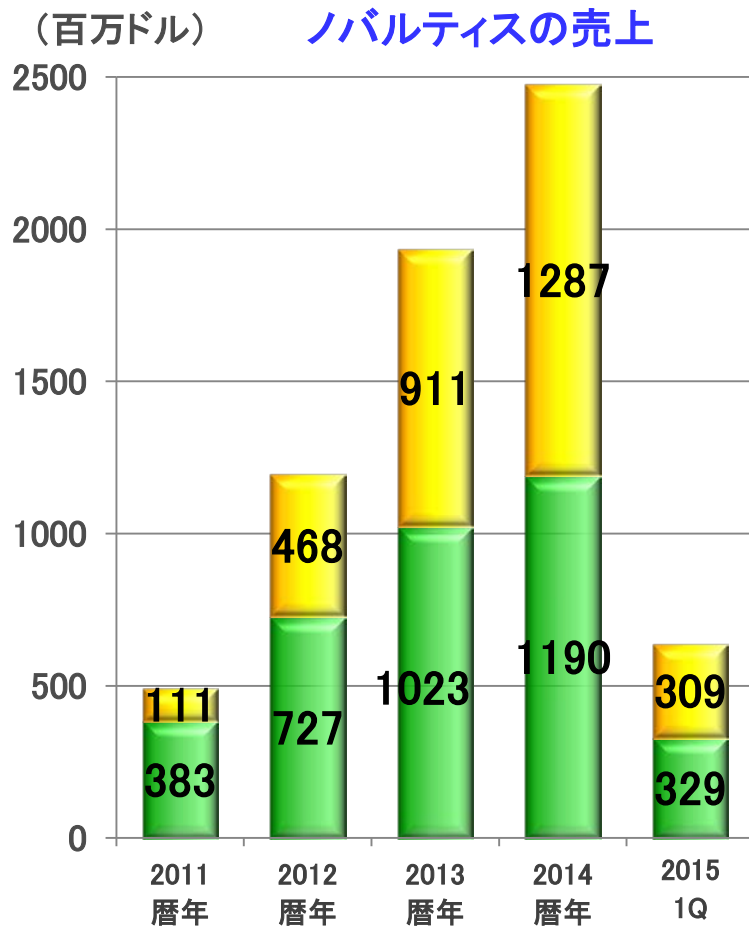
	2014年度	2013年度	増減		※通期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	4,151	4,127	+24	+0.6	4,060	102.2
売上原価	1,696	1,694	+2	+0.1	1,640	103.4
売上原価率	40.9%	41.0%			40.4%	
売上総利益	2,455	2,433	+22	+0.9	2,420	101.5
販管費	1,784	1,842	-58	-3.2	1,820	98.0
営業利益	671	591	+80	+13.6	600	111.9
経常利益	677	619	+58	+9.3	615	110.0
当期純利益	395	454	-59	-13.0	405	97.5

※通期予想：2014年度第2四半期決算発表時(2014年10月29日)公表

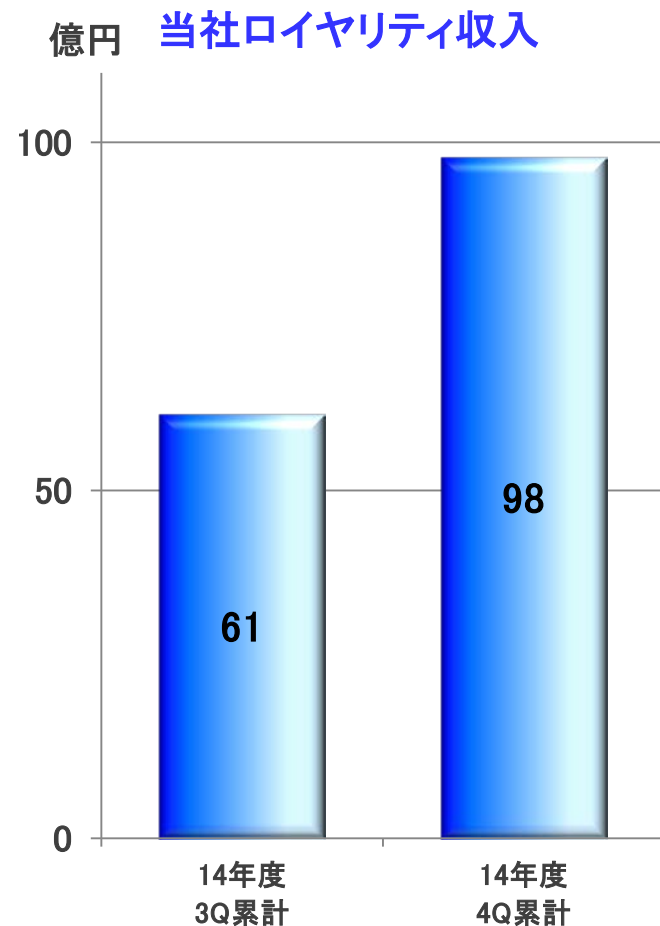
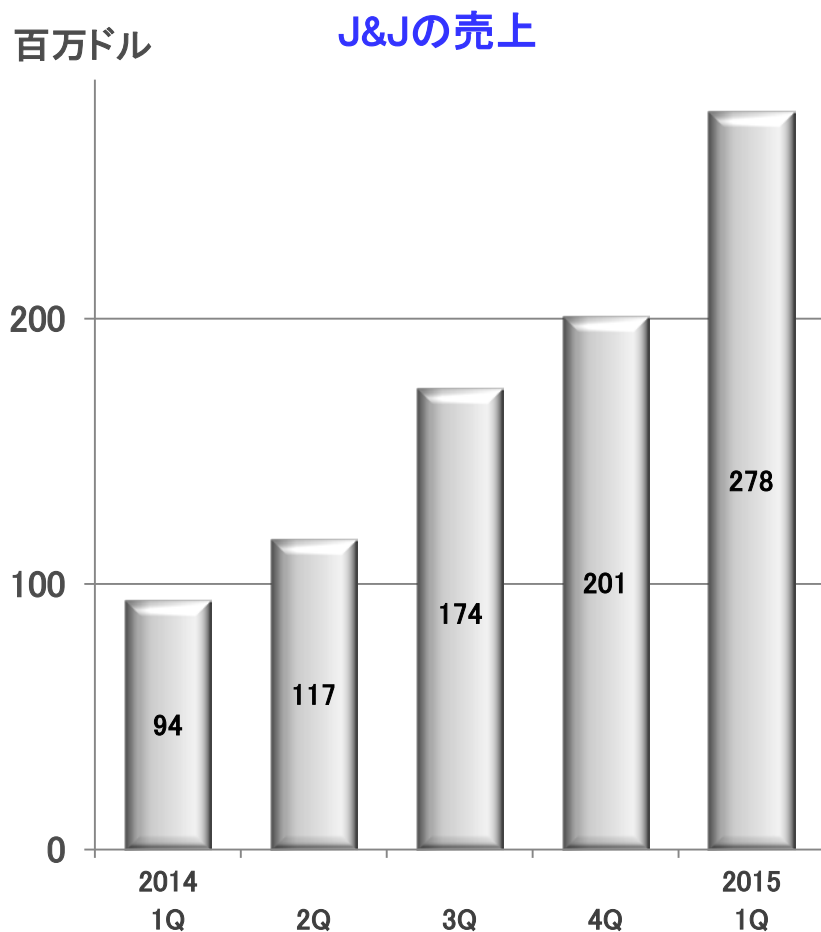
売上高の増減



- ◆ ノバルティスの2015年第1四半期の売上高は638百万ドル(前年同期比+16%)
- ◆ 当社2014年度のロイヤリティ収入は439億円(前期比+36.7%)



- ◆ J&Jの2015年第1四半期の売上高は278百万ドル(前年同期比+184百万ドル)
- ◆ 米国において、2型糖尿病市場で5%、内分泌医市場で12%の市場シェアを獲得
- ◆ 当社2014年度のロイヤリティ収入は98億円



売上原価・販管費

【2014年度 決算概要】

	2014年度	2013年度	増減		※通期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	4,151	4,127	+24	+0.6	4,060	102.2
売上原価	1,696	1,694	+2	+0.1	1,640	103.4
売上原価率	40.9%	41.0%			40.4%	
売上総利益	2,455	2,433	+22	+0.9	2,420	101.5
販管費	1,784	1,842	-58	-3.2	1,820	98.0
研究開発費	696	704	-8	-1.1	725	96.0
人件費	468	484	-16	-3.3	462	101.2
のれん償却額	109	106	+3	+2.6	108	101.1
その他	511	548	-37	-6.8	525	97.3
営業利益	671	591	+80	+13.6	600	111.9

※通期予想:2014年度第2四半期決算発表時(2014年10月29日)公表

営業外損益・特別損益

【2014年度 決算概要】

	2014年度	2013年度	増減		※通期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
営業利益	671	591	+80	+13.6	600	111.9
営業外損益	5	28	-22	-81.1	15	34.7
経常利益	677	619	+58	+9.3	615	110.0
特別利益	137	153				
固定資産売却益	120	10				
投資有価証券売却益	11	24				
関係会社株式売却益	6	-				
仲裁裁定に伴う特別利益	-	110				
段階取得に係わる差益	-	9				
特別損失	186	48				
構造改革費用	123	-				
のれん償却額	35	-				
減損損失	26	14				
投資有価証券評価損	1	6				
特別退職金	-	26				
その他	1	2				
当期純利益	395	454	-59	-13.0	405	97.5

※通期予想：2014年度第2四半期決算発表時(2014年10月29日)公表

	2014年度	補足説明
	億円	
構造改革費用	123	
かずさ研究所閉鎖決定	45	}
鹿島工場譲渡	31	
本社機能の集約・移転	23	
三菱製薬(広州)の事業撤退	14	}
海外事業の一部を中止	10	
のれん償却額	35	バイファ社のれんの一括償却
減損損失	26	
販売権の減損	16	
社員寮、社宅等の売却・遊休化	10	戸田寮、オサダノ寮・社宅など

2015年度業績予想



	2015年度 予想	2014年度 実績	増減		中計 数値目標※
	億円	億円	億円	%	億円
売上高	3,960	4,151	-191	-4.6	4,100
売上総利益	2,490	2,455	+35	+1.4	
営業利益	675	671	+4	+0.5	650
当期純利益	405	395	+10	+2.5	

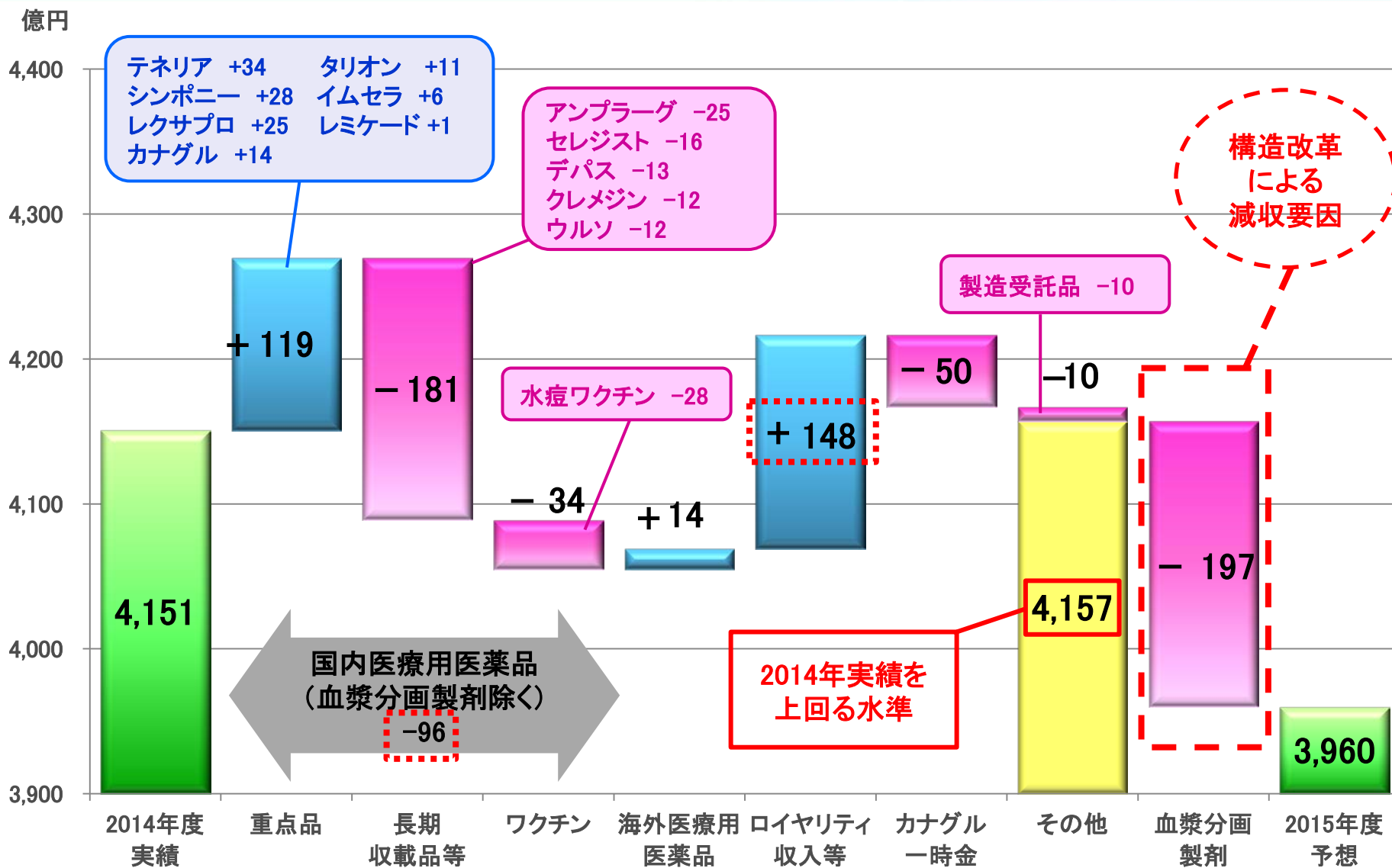
(参考)

営業利益 (研究開発費控除前)	1,415	1,367	+48	+3.5	
研究開発費	740	696	+44	+6.3	

※中計数値目標:2013年度決算発表時(2014年5月8日)公表

売上高の増減

【2015年度 業績予想】



ロイヤリティ収入等

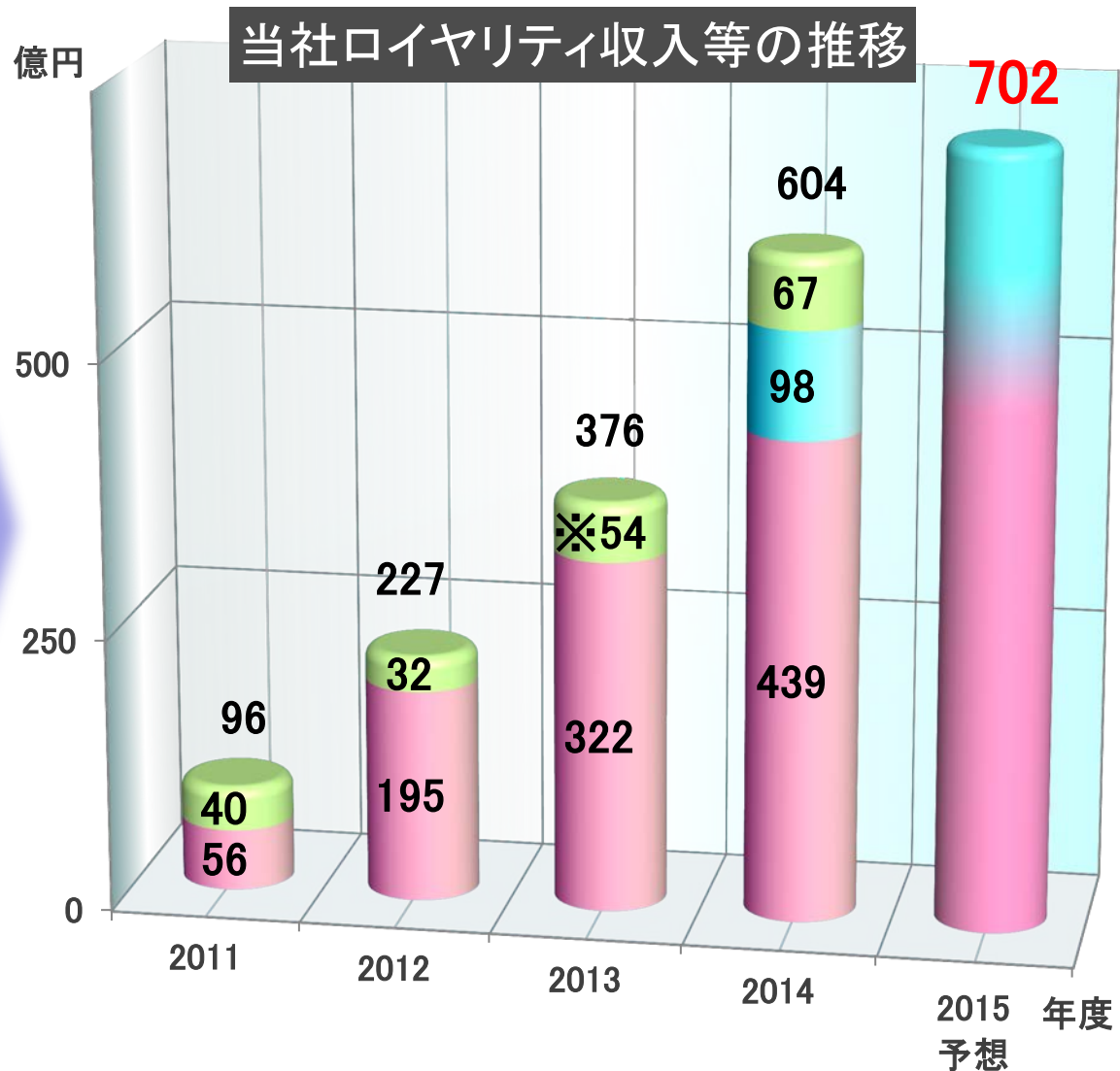
【2015年度 業績予想】

ジレニア売上高
 2014年: 25億ドル
 前年比+28%

2015年1Q: 6億ドル
 前年同期比+16%

**インヴォカナ
 インヴォカメット売上高**
 2014年: 6億ドル
 発売2年目

2015年1Q: 3億ドル
 前年同期1億ドル



■ジレニア ■インヴォカナ、インヴォカメット ■その他

※インヴォカナを含む

2015年度 業績予想

	2015年度 予想	2014年度 実績	増減	
	億円	億円	億円	%
売上高	3,960	4,151	-191	-4.6
売上原価	1,470	1,696	-226	-13.3
売上原価率	37.1%	40.9%		
売上総利益	2,490	2,455	+35	+1.4
販管費	1,815	1,784	+31	+1.7
研究開発費	740	696	+44	+6.3
人件費	460	468	-8	-1.6
のれん償却額	105	109	-4	-3.8
その他	510	511	-1	-0.2
営業利益	675	671	+4	+0.5
営業外損益	-5	5	-10	
経常利益	670	677	-7	-1.0
特別損益	-75	-50	-25	
当期純利益	405	395	+10	+2.5

原価率の改善

- ◆ 過剰在庫の処分に目途
- ◆ ロイヤリティ収入の増加
- ◆ 血漿分画製剤の販売提携終了

将来投資の増額と増益の両立

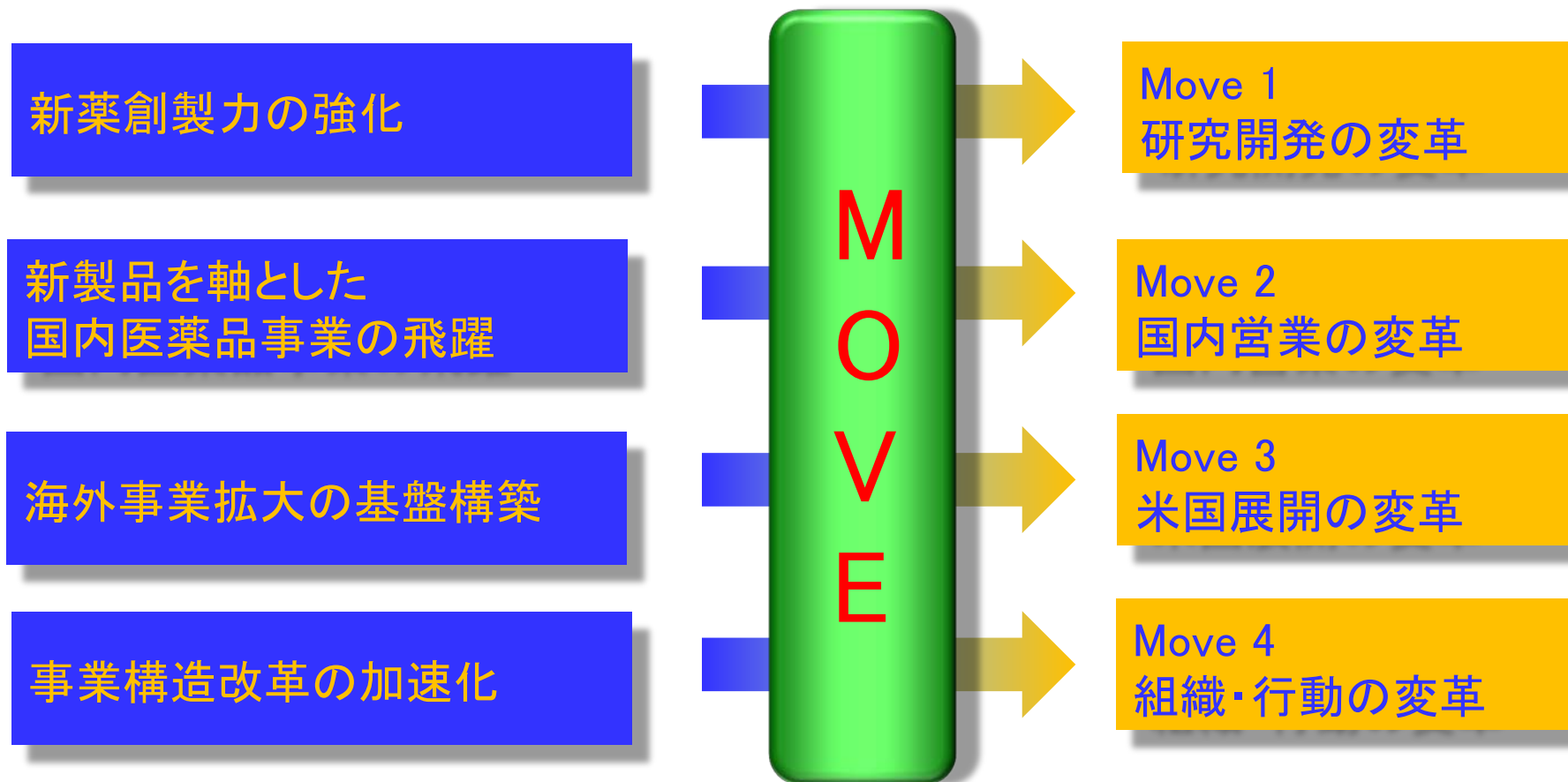
構造改革の推進

2015年度の取り組み



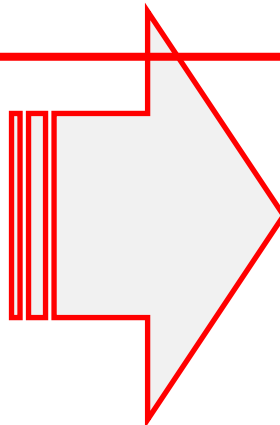
独自の価値を一番乗りで！

【2015年度の取り組み】



地図の無い場所に道を描き、前に向かって進んで行く

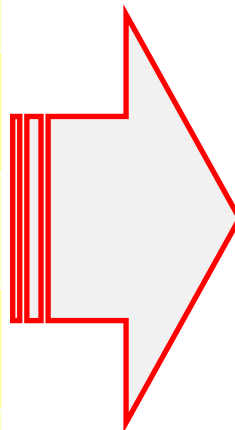
申請・承認

製品名 (適応症)	現在のステージ (地域)		Move Forward
タリオン (小児適応)	部会通過/4月 (日)		承認予定 (5~6月)
ラジカット (ALS)	申請中 (日)		承認を期待 (上半期中)
レミケード (特殊型ベーチェット病)	申請中 (日)		承認を期待 (上半期中)
レミケード (難治性川崎病)	P3 (日)		申請予定 (第1四半期中)

希少疾病用医薬品 「独自の価値を一番乗りで！」

臨床試験中

開発コード (適応症)	現在のステージ (地域)	Move Forward
MT-4666 (アルツハイマー型認知症)	P3 (国際共同治験)	国際共同P3推進中
MP-214 (統合失調症)	P2b/3 (日、アジア)	症例組み入れ終了 (2015年度中)
MT-2412 (2型糖尿病)	P3(日)	症例組み入れ終了 (2015年度中)
MT-3995 (糖尿病性腎症)	P2(日欧)	早期にPOCの取得
MT-1303 (多発性硬化症)	P2(欧州)	P2の結果が良好であったため、 次ステップについて検討
MT-1303 (炎症・自己免疫疾患)	P1(日欧米)	P2準備中(クローン病)
季節性インフルエンザ ワクチン	P2(米、カナダ)	P2b入り(2015年度中)



Move 1 研究・開発の変革 「独自の価値を一番乗りで！」

中枢神経系疾患領域のパイプライン強化

MT-5199 VMAT2 阻害薬

ドパミン等の神経伝達物質のシナプス前小胞への取込みを減らし、不随意運動の発生に関わるドパミン神経系の機能を正常化

適応症：不随意運動を伴う以下の疾患

- ◆ 遅発性ジスキネジア
- ◆ ハンチントン病に伴う舞踏運動

ハンチントン病
新しい治療選択肢の提供

遅発性ジスキネジア
治療薬が存在しない疾患へのチャレンジ

独自の価値を
一番乗りで！

統合失調症・
トゥレット症候群等へ
拡大の可能性

精神科フランチャイズ
の充実

当社は米国ニューロクライン社と、NBI-98854(同社開発コード)に関する日本およびアジアにおける独占的開発・販売権に係るライセンス契約を締結(2015年3月)

日本においてPhase1試験準備中

領域	P1	P2	P3	申請中
中枢神経系疾患	MT-5199	MP-214(統合失調症)	MT-4666 (AD)	ラジカット(ALS)

RD改革室の設置

(2014年10月1日)

1 社外協業の強化

アカデミア

京都大学、大阪大学、他

企業

AstraZeneca、Covagen 他

米国を中心とする
事業開発機能の再編

メディカルサイエンス

オープンイノベーション/
シェアードビジネス

2 研究開発スピードの加速

3

臨床的価値の明確化 (メディカルサイエンスの強化)

患者さん

医療従事者

保険者

個々の視点を取り込む

2015年7月1日、プロジェクト軸を強化したユニット制へ移行

◆ 化学と薬理の緊密な連携下に、優れた化合物を探索

営業改革室の設置

(2014年10月1日)

1

事業提携品の拡大

営業本部内の事業提携機能強化

- ◆ 専門部門の設置
 - ◆ 調査・情報収集強化
- 製品戦略部との連携強化

2

MR営業力の強化

専門領域の強化

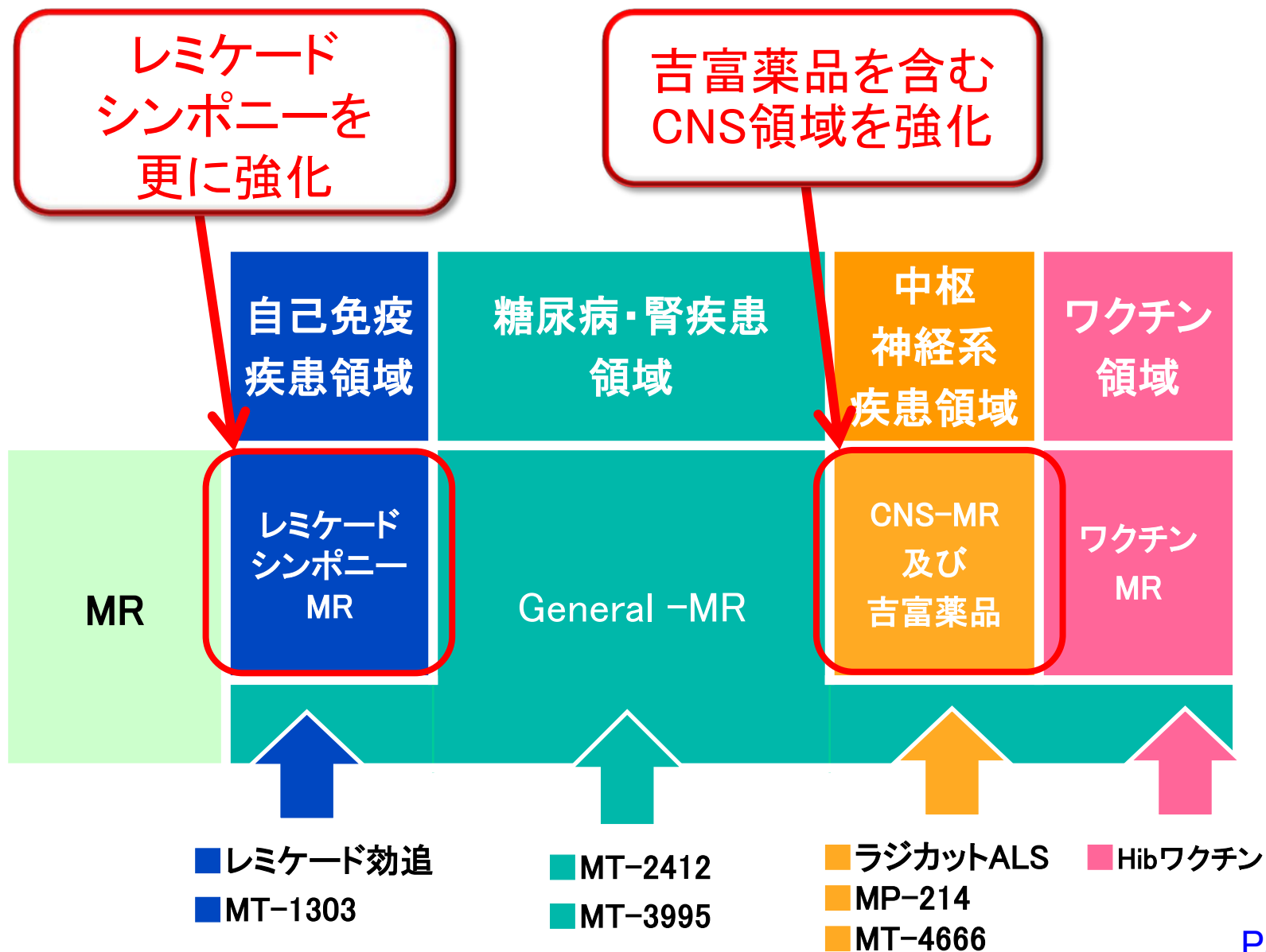
- ◆ 領域専門担当者の強化
- MR教育研修改革
- ◆ 治療提案型情報提供のスキル向上
- エリア管理の強化

3

新製品の価値を
最大化する仕組みの確立

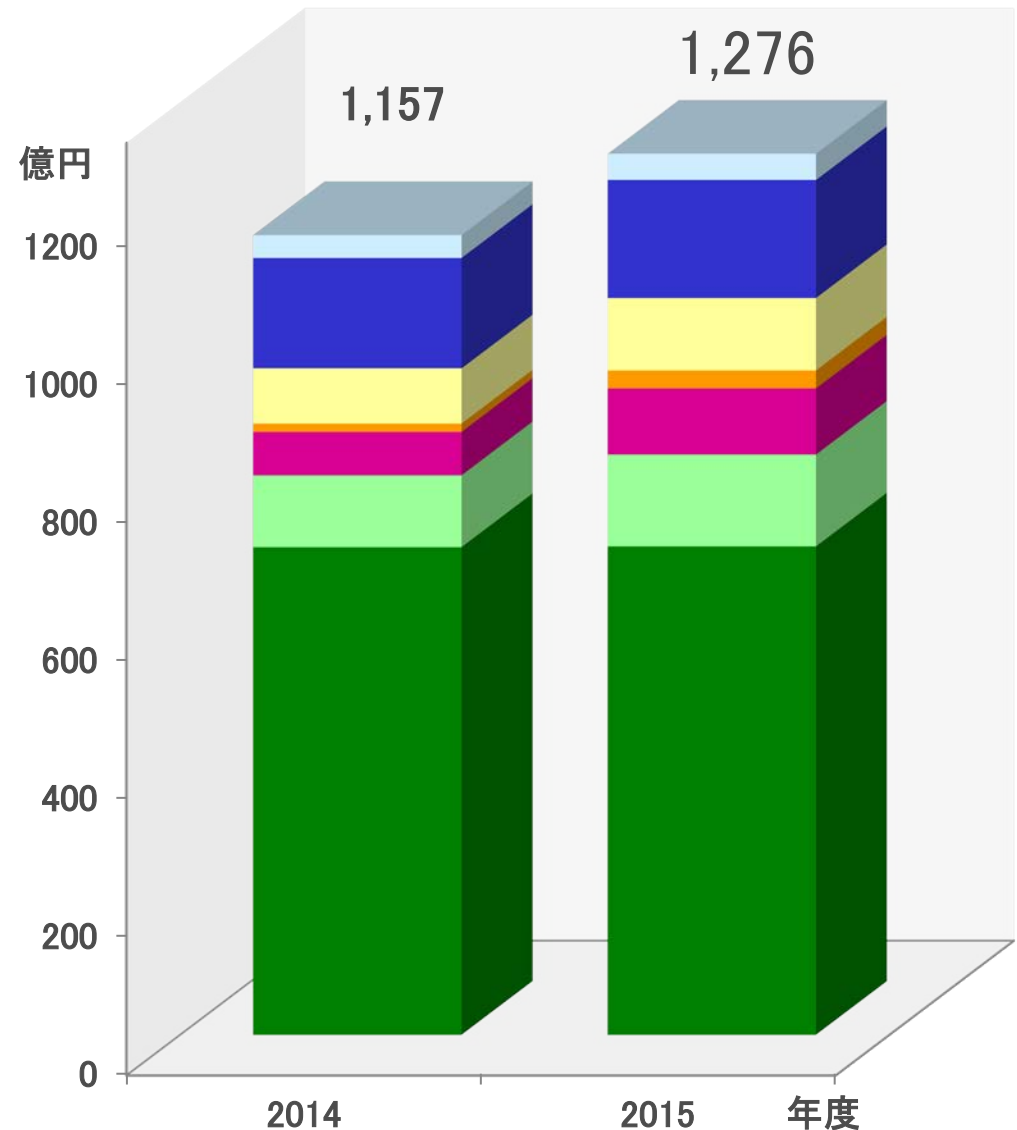
LCMの早期計画化

医療ニーズに沿ったエビデンスの立案、早期実施



Move 2 国内営業の変革 重点製品の育成

億円				
	製品名	14年度	15年度	差額
	レミケード	706	707	+1
	シンポニー	105	133	+28
	テネリア	62	96	+34
	カナグル	12	26	+14
	レクサプロ	80	105	+25
	タリオン	160	171	+11
	イムセラ	32	38	+6
	合計	1,157	1,276	+119

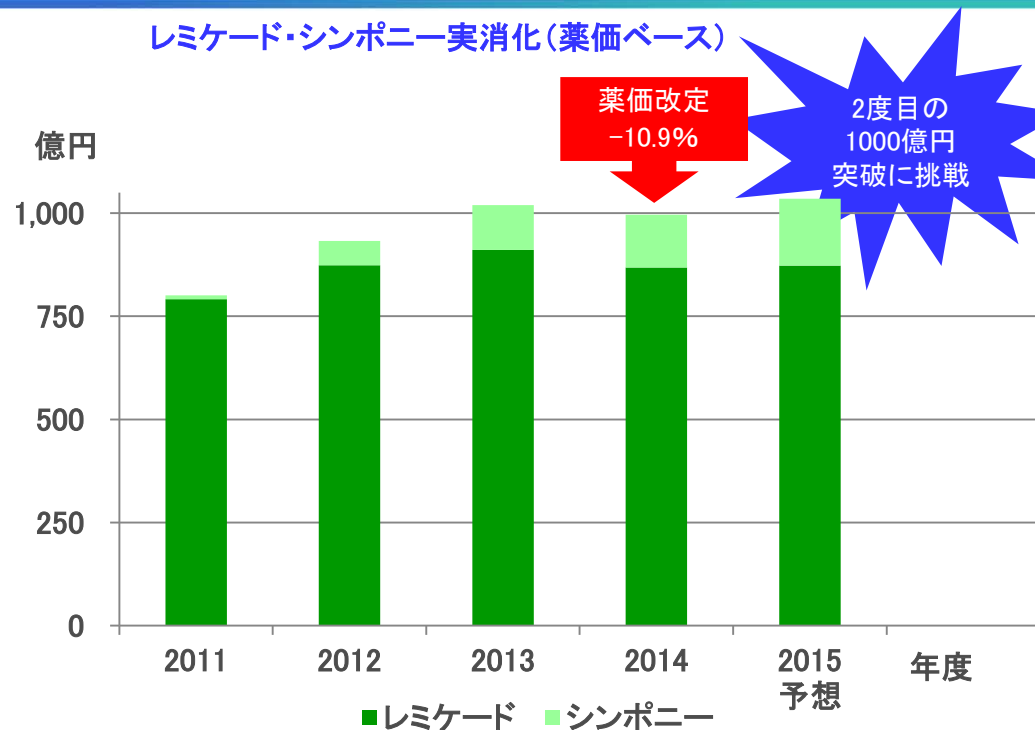


Move 2 国内営業の变革 レミケード・シンポニー

【2015年度の取り組み】

2015年度活動方針			
シンポニー	RA	➡	成長ドライバー
レミケード		➡	第一選択薬率の維持・向上
		IBD	➡

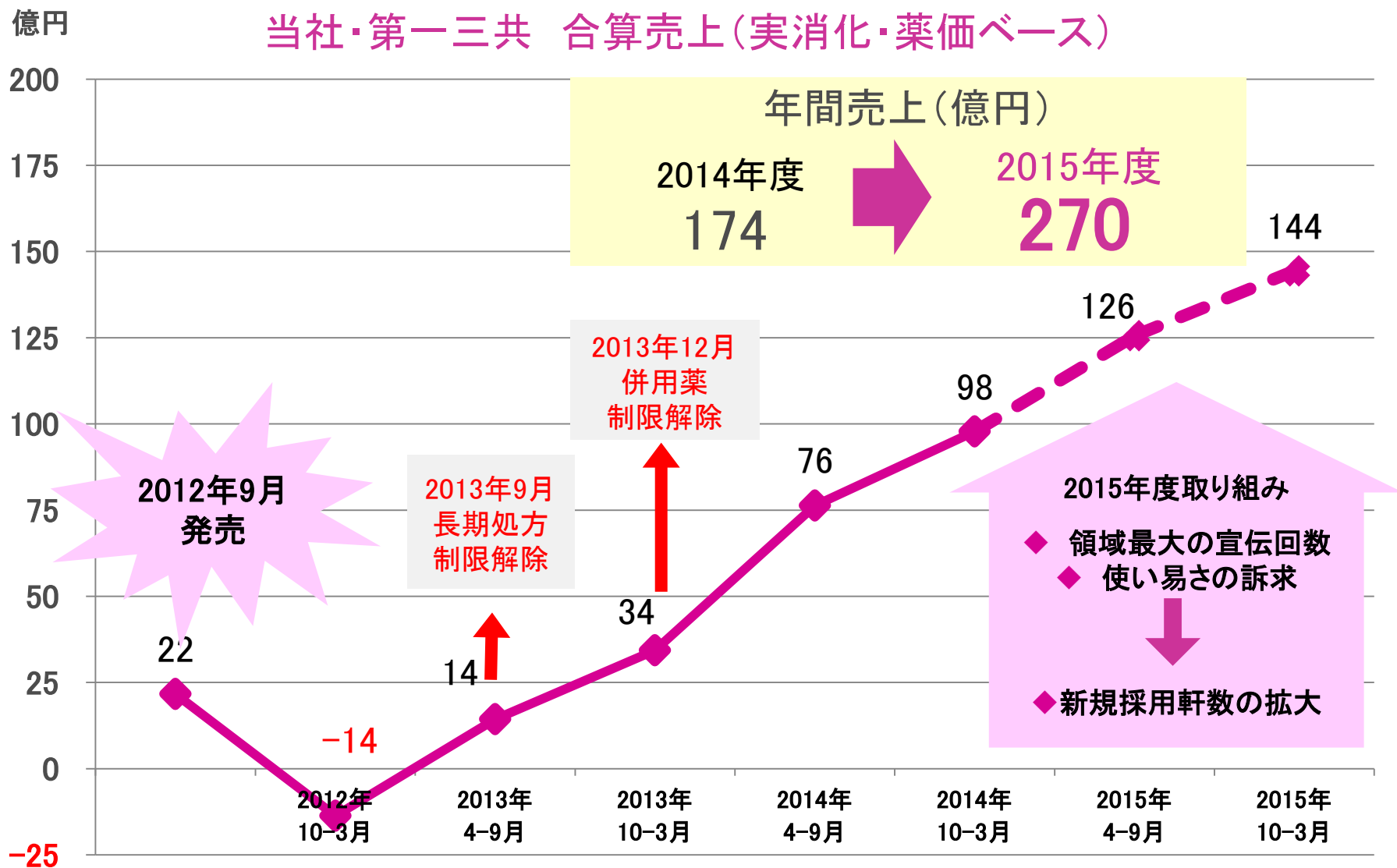
レミケード・シンポニー実消化(薬価ベース)

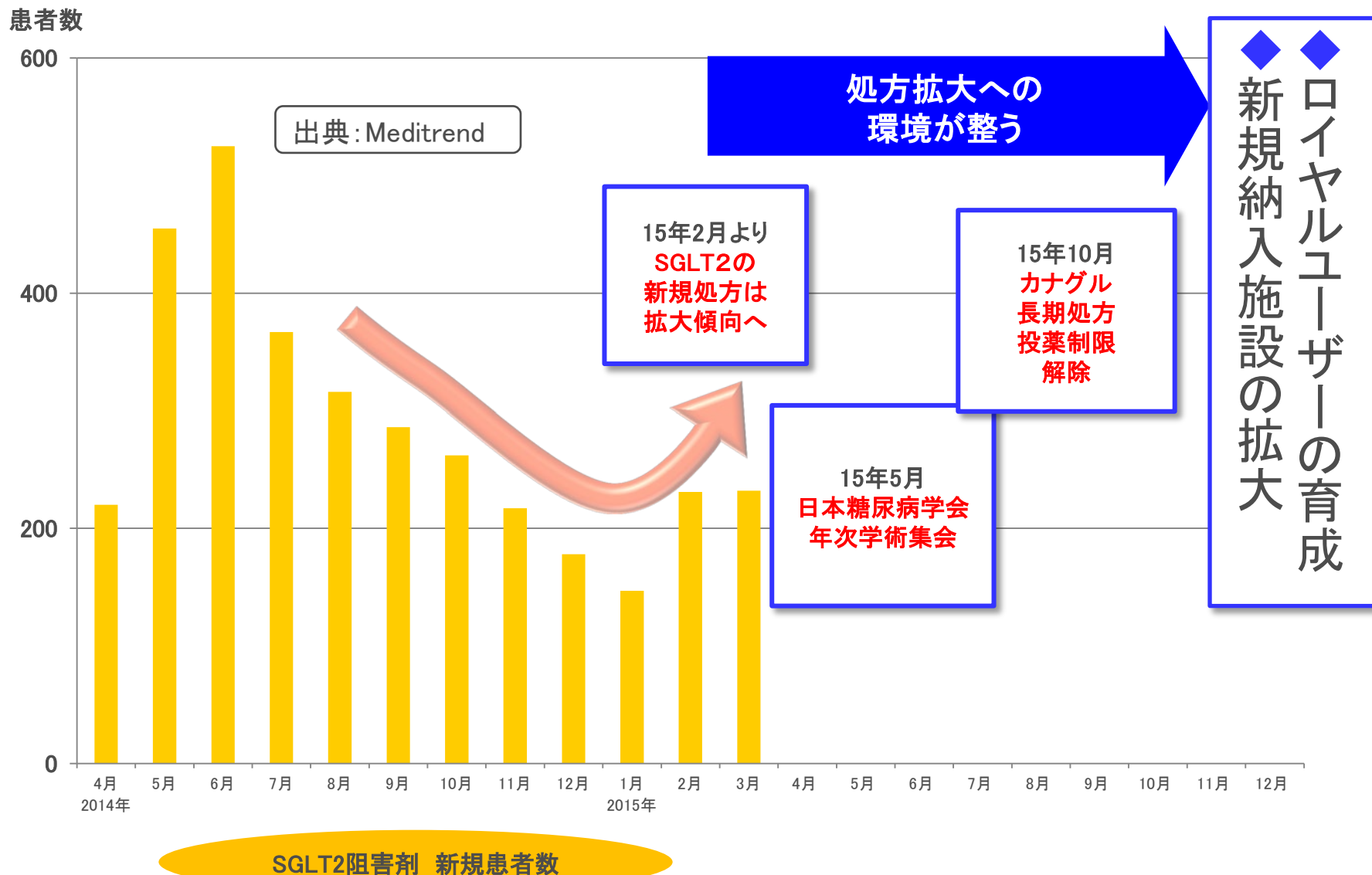


さらなる適応拡大に向けて

		2014年度	2015年度
レミケード	特殊型ベーチェット病(希少疾病用医薬品)	2014/10申請済み	承認予定(上半期)
	川崎病(希少疾病用医薬品)		申請予定
	小児クローン病		申請予定
	小児潰瘍性大腸炎		申請予定
	乾癬(増量)		申請予定
シンポニー	潰瘍性大腸炎	ヤンセンファーマが開発中(P3)	

【2015年度の取り組み】





グローバルビジネスディベロップメントの機能強化



2015年7月1日より、

- ◆ グローバルビジネスディベロップメント統括機能を米国の統括会社に設置
- ◆ 日米欧の3極にビジネスディベロップメント担当部門を配置

グローバルビジネスディベロップメント統括
米国 (MTHA)

The map shows three regional divisions: North America (MTHA), Europe (MTPE), and Japan (MTPC). Yellow double-headed arrows connect the three regions, indicating collaboration and synergy between them.

ビジネスディベロップメント
欧州 (MTPE)

ビジネスディベロップメント
日本 (MTPC)

- ◆ アライアンス活動の機動力強化
- ◆ アカデミアやベンチャー企業等とネットワーク形成
- ◆ 製品・開発品や創薬技術の獲得、米国自販体制の基盤構築

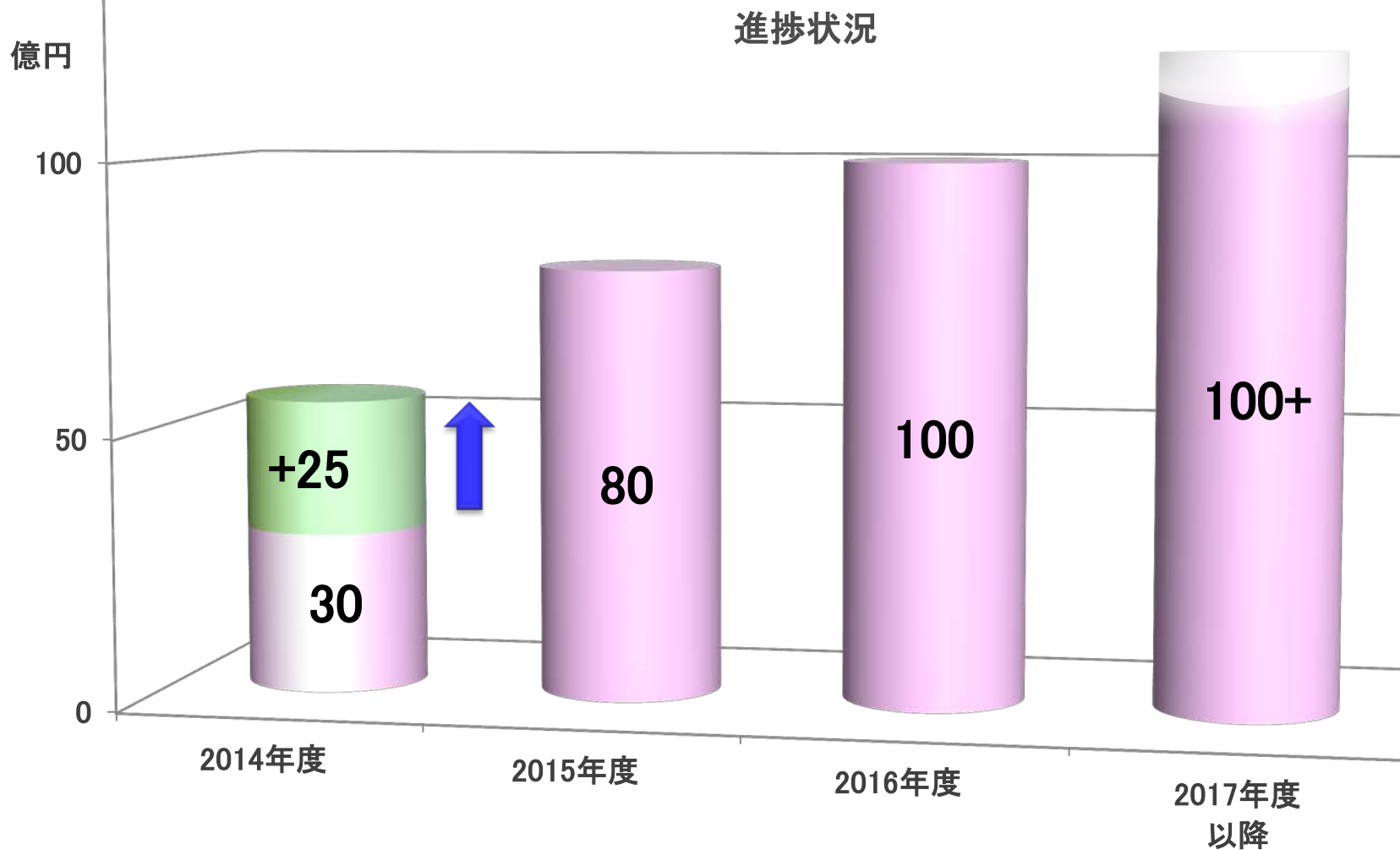
Move 4 組織・行動の変革 構造改革による費用削減

【2015年度の取り組み】



構造改革(拠点再編含む)として、2014年度は計画30億円に対して55億円の効果

※ ベンチマークは2012年度経費

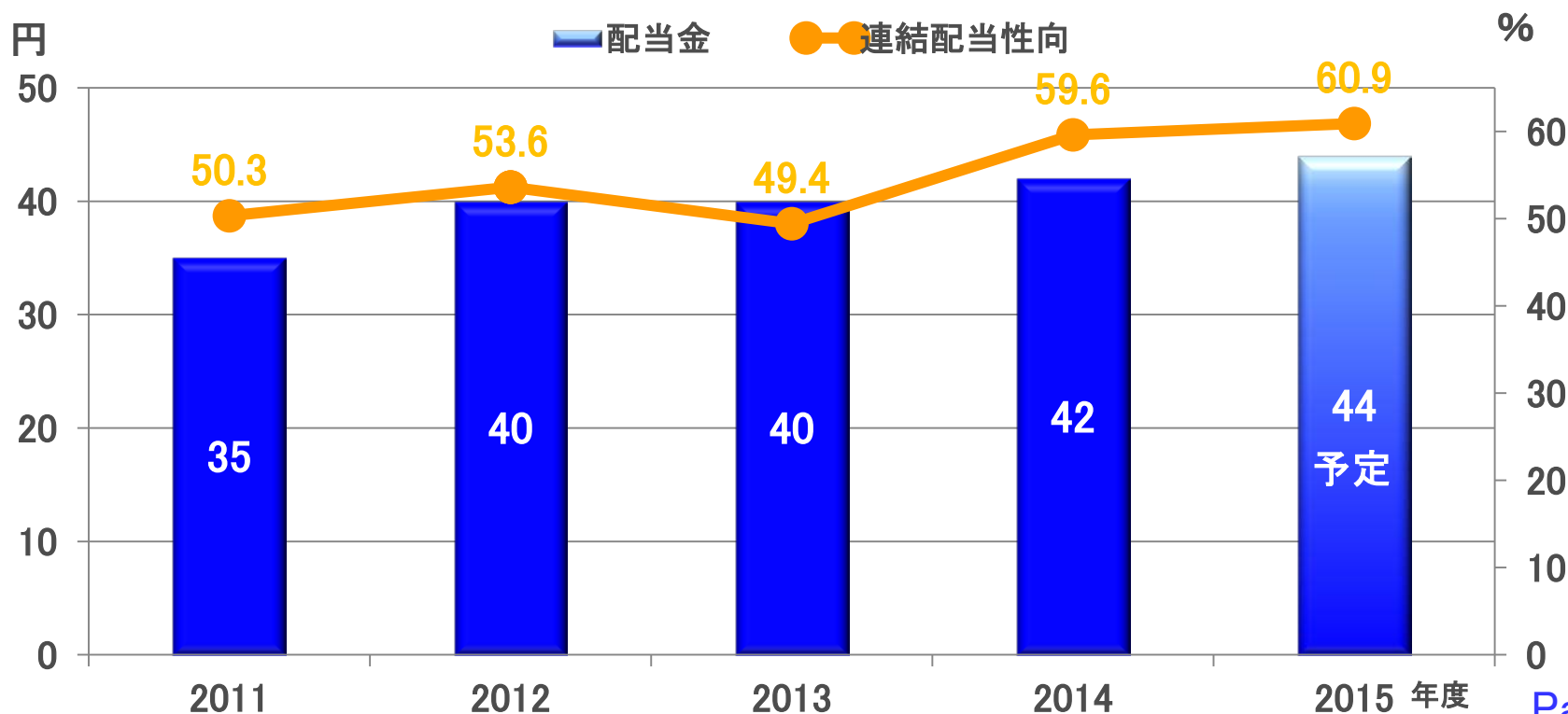


株主還元



◆ 配当方針

- ◆ 当社は、将来成長のための投資を積極的に実行することにより企業価値の増大を図るとともに、安定的、継続的に株主還元を充実させていくことを基本方針としている
- ◆ 中期経営計画11-15期間では、利益成長に加え、連結配当性向50%（のれん償却前の連結配当性向40%）を目処に引き上げ、株主還元を拡充する



*New **Value** Creation*

「新たな価値を創造しつづける企業」へ

補足資料



セグメント別売上高

	2014年度	2013年度	増減		※通期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	4,151	4,127	+24	+0.6	4,060	102.2
(うち海外売上高)	(779)	(594)	(+186)	(+31.3)	(703)	(110.9)
医薬品事業	4,147	4,116	+31	+0.7	4,056	102.2
国内医療用医薬品	3,239	3,417	-178	-5.2	3,225	100.4
ロイヤリティ収入等	604	376	+228	+60.7	536	112.7
海外医療用医薬品	230	220	+10	+4.6	220	104.9
一般用医薬品	40	45	-5	-10.5	43	106.7
製造受託品	34	58	-25	-42.2	33	101.6
その他	4	10	-6	-58.0	4	109.5

※通期予想:2014年度第2四半期決算発表時(2014年10月29日)公表

国内医療用医薬品 重点品売上高

【2014年度決算 補足資料】

	2014年度		2013年度		増減		※通期予想	達成率
	億円	億円	億円	億円	%	億円	%	
シンポニー	105	94	+11	+11.6		115	90.6	
レクサプロ	80	65	+15	+23.4		80	99.6	
テネリア	62	8	+54	+684.1		65	96.3	
イムセラ	32	23	+10	+42.7		35	92.9	
カナグル	12	-	+12	-		-	-	
新製品合計①	290	189	+102	+53.8		* 295	* 94.6	
レミケード	706	763	-57	-7.5		703	100.4	
タリオン	160	137	+23	+16.7		164	97.6	
メインテート	141	155	-13	-8.5		145	97.9	
クレメジン	105	125	-20	-16.1		105	100.1	
既存品合計②	1,113	1,180	-67	-5.7		1,117	99.6	
テトラビック	75	67	+8	+11.9		71	106.5	
水痘ワクチン	72	36	+36	+99.6		52	136.9	
ワクチン合計③	147	103	+44	+42.4		123	119.4	
重点品合計①+②+③	1,550	1,472	+78	+5.3		* 1,535	* 100.3	






※通期予想:2014年度第2四半期決算発表時(2014年10月29日)公表

* カナグルを除く

開発パイプラインの進捗状況

(2015年2月2日以降の進捗)

【2014年度決算 補足資料】

	治験コード/製品名	機序(予定適応症)	地域	P1	P2	P3	申請	承認
自社開発	トリビック	ワクチン・トキソノイド混合製剤 (百日せきジフテリア破傷風感染 予防;2期接種)	日本					
	TA-650	抗ヒトTNF α モノクローナル抗体 製剤(クローン病、潰瘍性大腸炎、 小児クローン病、小児潰瘍性大 腸炎)	台湾					
	TA-7284	SGLT2阻害剤(2型糖尿病)	台湾					
	MP-513	DPP-4阻害剤(2型糖尿病)	インドネ シア					
導出	MP-513 (導出先:ハンドク)	DPP-4阻害剤 (2型糖尿病・メトホルミンとの合 剤[徐放性製剤])	韓国					

赤字: 2014年度第2四半期決算発表(2014年10月29日)以降進捗

2015年5月8日現在

フェーズ1試験

- MT-1303(日・欧・米)
炎症・自己免疫疾患
- MP-513(米国)
2型糖尿病
- MT-3995(米国)
糖尿病性腎症
- MP-124(米国)
脳梗塞急性期
- MP-157(欧州)
高血圧症
- GB-1057(米国)
安定化剤
- MT-0814(日本)
加齢黄斑変性症
- インフルエンザワクチン
(カナダ)
インフルエンザ[H7N9]予防

フェーズ2試験

- MT-1303(欧州)
多発性硬化症
乾癬
- MP-513(欧州)
2型糖尿病
- MT-3995(欧州、日本)
糖尿病性腎症
- MT-2301(日本)
Hib予防
- インフルエンザワクチン
(カナダ)
インフルエンザ[H5N1]予防
- インフルエンザワクチン
(米国、カナダ)
季節性インフルエンザ予防

フェーズ3試験

- MT-4666(国際共同治験)*1
アルツハイマー型認知症
- MP-214(日本、アジア)
統合失調症
- レミケード(日本)
難治性川崎病
小児・クローン病
小児・潰瘍性大腸炎
乾癬・増量
- イムセラ(国際共同治験)*2
慢性炎症性脱髄性
多発根神経炎(CIDP)
- カナグル(国際共同治験)*3
糖尿病性腎症
- MT-2412(日本)
2型糖尿病
- テラビック(日本)
C型慢性肝炎
(フェロン併用)

申請

- タリオン(日本)
小児・アレルギー性鼻炎
小児・アトピー性皮膚炎
- レミケード(日本)
特殊型ベーチェット病
- ラジカット(日本)
筋萎縮性側索硬化症
- トリビック(日本)*4
ワクチン・トキシイド
混合製剤
(百日せきジフテリア
破傷風感染予防[2期接種])
- TA-7284(台湾)
2型糖尿病
- MP-513(インドネシア)
2型糖尿病
- TA-650(台湾)
クローン病
潰瘍性大腸炎
小児・クローン病
小児・潰瘍性大腸炎

主な導出品 (フェーズ3以降)

- MP-513/Met XR合剤(韓国)
2型糖尿病
- FTY720(国際共同治験)*2
CIDP
- TA-7284/Met XR合剤(米国)
2型糖尿病
- TA-7284(国際共同治験)*3
糖尿病性腎症

承認・販売開始

フェーズ3

中止

- FTY720(国際共同治験)
一次進行型多発性硬化症

中止

- ビンドレン(欧州)
小児・高リン血症
- コレバイン(日本)
2型糖尿病
高リン血症
- テラビック(日本)
C型慢性肝炎(ペガシス併用)
- MP-424(韓国)
C型慢性肝炎

治療対象疾患

- : 自己免疫疾患 ■ : 糖尿病・腎疾患
- : 中枢神経系疾患 ■ : ワクチン ■ : その他

*1 : フォーラム ファーマシューティカルズと共同開発

*2 : 日本はノバルティスファーマと共同開発, 海外はノバルティスファーマに導出

*3 : 治験依頼者: ヤンセン リサーチ アンド デベロップメント

*4 : 阪大微生物病研究会と共同開発

注意事項

本資料に記載した一切の記述内容は、現時点での入手可能な情報に基づき、一部主観的前提をおいて合理的に判断したものであり、将来の結果はさまざまな要素により大きく異なる可能性がありますので、ご了承ください。